

先進事例を見る

全国中央会では、中小企業・小規模事業者や組合等連携組織が、新たな事業活動への挑戦や組織体制の見直し等を行う際の参考となるよう、知識や経験、ノウハウの移転・活用につなげることを目的に掲げ、都道府県中央会と連携し、課題解決等に先進的に取り組む組合活動事例について調査・分析、収集・普及を行っています。今回は、平成30年度に行った調査のうち、「共同事業の新展開―既存事業の再生」についての組合事例をご紹介します。

協同組合東出雲ショッピングパーク

— 生まれ変わった共同店舗で地域住民へ快場の提供 —

住 所	(〒699-0110) 島根県松江市東出雲町錦新町8-1-3	U	R	L	-
電 話 番 号	0852-52-7601	出 資 金	5,010千円		
設 立	平成9年1月	組 合 員 数	5人		
主 な 業 種	異業種				

■背景・目的

少子高齢化時代の中、県外資本のディスカウントストア、ドラッグストアやコンビニエンスストアが周りに多く出店し、売上高も減少している。今後、組合の経営を維持していくためには、組合と各組合員の経費削減と効率化を図りながら、来店し、購買してもらえるような、店舗経営を図っていくことが重要な課題になっている。

■取組みの手法と内容

平成28、29年度地域・まちなか商業活性化支援事業（経済産業省：中国経済産業局管轄）に応募し、採択された。当事業で実施したアンケート調査分析を参考としながら、新惣菜開発のために製造作業場の整備等ハード面の整備を行い、地域住民のニーズの把握と、調査結果を踏まえた組合員同士の現状把握、意識改革にもつながった。

また、松江市と連携し、高齢者向け健康便利惣菜メニューと新サービスについて検討。組合員の企業に所属する管理栄養士を中心に月に1回の惣菜開発会議を開き、高齢者を中心とした健康相談に応じた惣菜メニューの開発を行った。さらに当組合で「そうざい製造」許可を取得したことにより、2号店への配達が可能となり、各店舗で製造に携わっていた従業員を集約して製造業務と販売業務を分離。業務を特化させて製造の効率化を図ることにより、労働生産性の向上、営業時間の短縮、セミセルフレジの投入など、人手不足対策と生産性向上にも対応可能となった。今後も運営を効率化させることで売上げの向上を目指している。

また、近隣の住宅開発の進展により、若年人口が流入しており、「コストコ」の商品売り場を設けることで、若年層の取り込みに向けた新たな魅力づくりを推進すると共に、バリアフリー環境の設備や健康相談会の実施、福祉施設への注文配達の実施を検討する等、主要顧客である高齢者の更なる利用拡大に向けた魅力づくりを推進している。

■成果とその要因

成果としては、惣菜作業場の拡充により、主婦層や単身世帯、高齢者ニーズに応じた惣菜開発（健康相談に応じた惣菜メニューの開発・提供）及び製造体制の改革を実施できる体制を確立したことが挙げられる。

また、成功の要因は、高齢者支援を推進する行政、店舗診断に精通した専門家、支援機関と一体となって取り組んだことである。



▲コストコーナー



▲セミセルフレジの導入



事業・活動 実現のキーファクター

アンケート調査に基づく裏付け資料を基にハード整備を行ったことにより、店舗側の構想だけでなく、より地域住民・消費者のニーズを捉えたりリニューアルを完成させた。